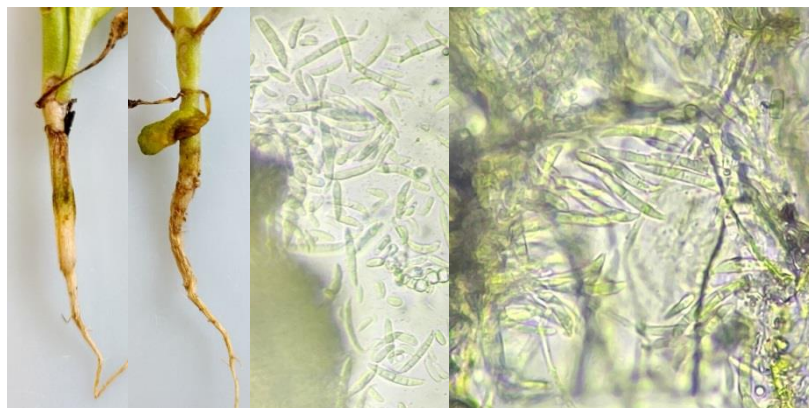


花き類の立枯性病害に見る原因菌とその症状の特徴



1. ストック立枯病

フザリウム菌による症状です。根の先端から腐敗が進行する特徴があります。

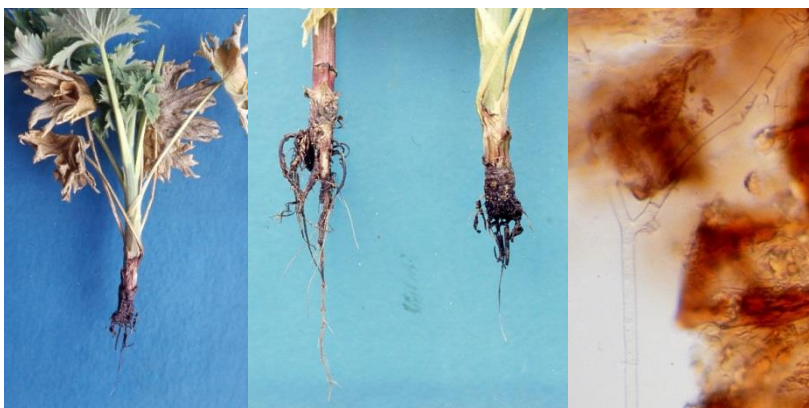
細根は腐敗消失し、主根は褐変し、繊維質を残して皮層が軟化腐敗していました。腐敗根周囲には分生子が多数分散しており、被害組織内には菌糸や大型分生子の分生子座を確認できました。



2. アスターリゾクトニア立枯病

リゾクトニア菌による症状です。地際から感染する特徴があります。これは地際部から茎葉へと地上部へ進展するタイプです。

茎の地際部から黒褐変腐敗し、葉柄へも上位進展し、枯死に至りましたが、地下部への進行は弱く、根は多く残存していました。



3. デルフィニウム立枯病

リゾクトニア菌による症状です。地際から感染する特徴があります。これは地際部から根へと地下部へ進展するタイプです。

地際部が黒変腐敗し、根はほとんど腐敗消失していました。黒変腐敗部分にまわりついているリゾクトニア菌のT字型分岐の菌糸が容易に観察できます。



4. トルコギキョウ根腐病

ピシウム菌による症状です。宿主細胞内に侵入せず、宿主の細胞間を伸長する特徴があります。根の外観的形態は保たれていますが、飴色水浸状に変色して脆くなっており、内部には卵胞子が形成されています。

根は、しだいに腐敗崩壊していきますが、根の上位部から白い新根の再生も見られます。